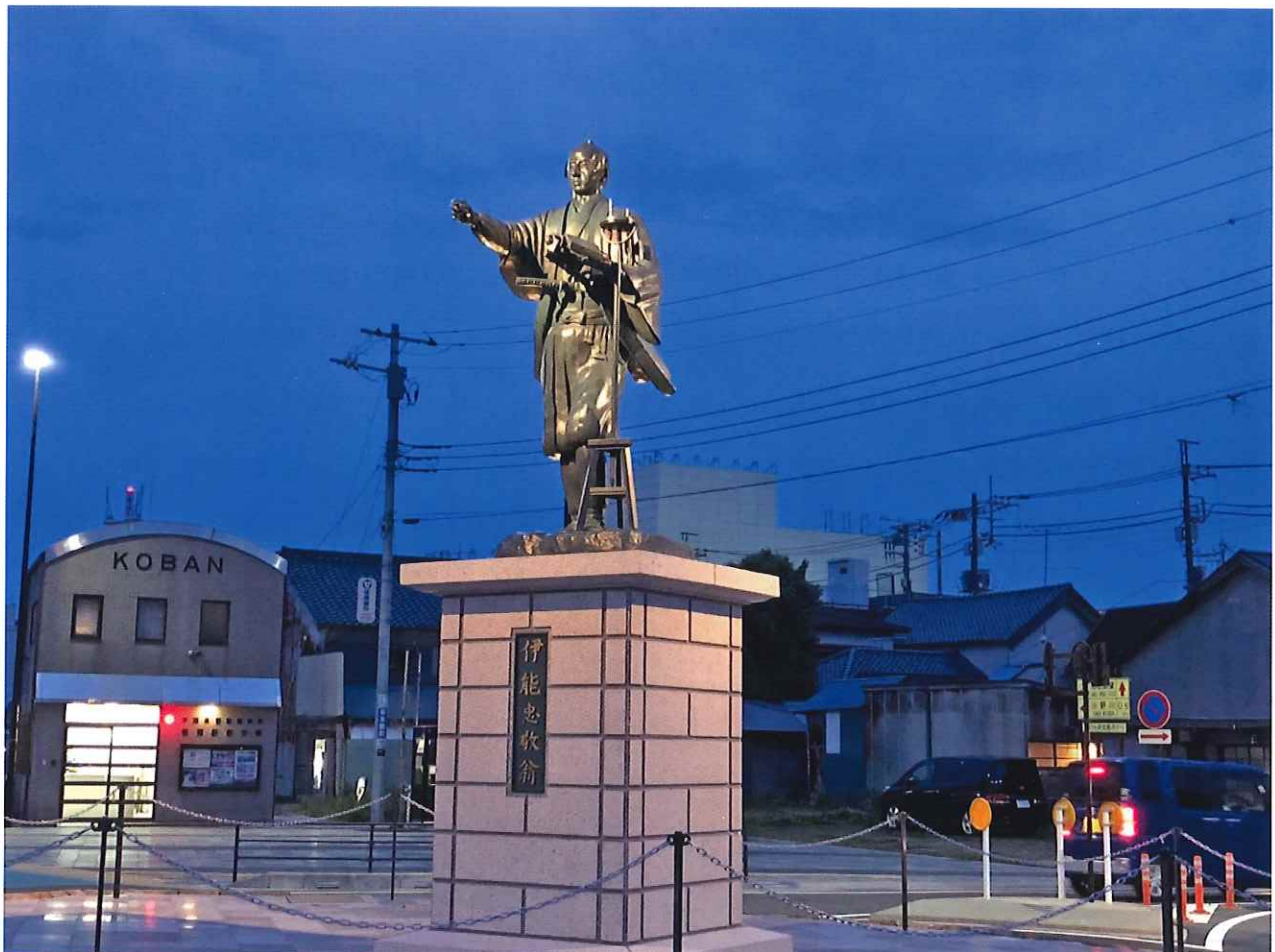




消防千葉

2018 No.564 平成30年10月号

平成30年10月1日 編集兼発行人
千葉市中央区仁戸名町666番地2 千葉県消防会館内
公益財団法人千葉県消防協会会長 石橋 毅
TEL043(263)9885
郵便番号 260-0801
ホームページ <http://business4.plala.or.jp/chisyo/>
メールアドレス chisyokai@bz04.plala.or.jp



伊能忠敬翁銅像（香取市）香取支部

巻 頭 言

「生生発展」

市原市消防局 消防局長 高澤 重義



「地磁気逆転期地層」が、市原市の南部、養老川中流域田淵で発見されました。この地層は、地質時代区分の第四紀更新世前期及び更新世中期の地層です。今から約77万年前に最後の地磁気逆転現象がおき、その後現在と同じ地磁気の向きになった痕跡が残されています。この現象が、同じ地層の中で連続的に観察・分析できる場所は、市原市田淵周辺以外ではほとんど例がなく、学術上極めて価値の高いものです。

現在、地質時代境界の国際標準模式層断面及び地点 (GSSP) に認定される可能性も高まり、もし認定された場合、77万年前から始まる更新世中期という地質時代について「チバニアン」の名がつくこととなります。今後の進展に大いに期待が膨らみます。

さて、早いもので平成23年に発生した東日本大震災から7年の月日が流れました。私は、過去に例がないLPGタンクの大爆発火災を目のあたりにして、その光景は今も瞼の裏に焼き付いております。この大災害は、日本における災害対応への大きな教訓となり、石油コンビナート・化学プラント等のエネルギー・産業基盤の被災に備え、特殊災害の対応に特化した部隊であるエネルギー・産業基盤災害即応部隊「ドラゴンハイパー・コマンドユニット」が平成27年に発足され、中核車両となる「大型放水砲搭載ホース延長車」及び「大容量送水ポンプ車」が本市に配備されました。この2台を中心に、市内への出動だけでなく、緊急消防援助隊として全国の大規模な石油コンビナート等の災害に対応いたします。

また、平成31年度には、複雑多様化する災害に対応するため、更なる消防力の強化が求められる中、昭和46年7月から仁戸名の地で多くの職団員の教育訓練等を行ってきた千葉県消防学校が、市原市菊間にて新たなスタートを切ります。今後は、今まで以上に充実した施設で教育訓練を受けることで、千葉県全体の消防力の向上が更に図られると確信しております。

最後に、本県消防の益々の発展を祈念申し上げ、私の巻頭の言葉とさせていただきます。

第39回九都県市合同防災訓練(千葉県会場) 「勝浦市立勝浦中学校ほか」で実施!

県では、防災関係機関の災害対策の充実強化と県民の防災意識の高揚を図るため、大規模な地震の発生を想定し、第39回九都県市合同防災訓練(千葉県会場)を8月26日(日)に勝浦市において実施しました。

訓練概要

1 実施日時・場所

平成30年8月26日(日) 10:00～13:00

勝浦市立勝浦中学校(勝浦市出水1120番地1)ほか

2 主 催

千葉県、勝浦市、公益財団法人千葉県消防協会

3 訓練規模

(1) 参加機関 112機関

県・市のほか、警察、消防機関、自衛隊、医療関係団体、ボランティア団体 等

(2) 参加人員 約5,000人

4 今回の訓練の特徴

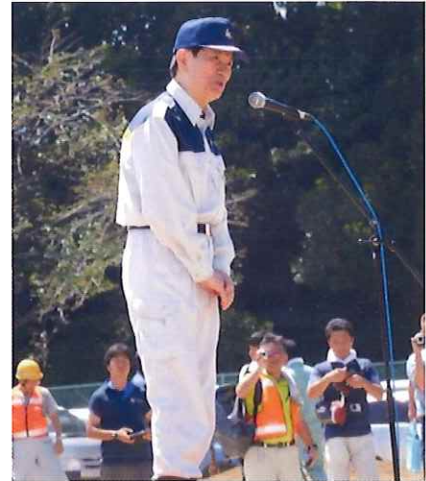
県南地域の特性※や熊本地震などの大災害の課題に重点をおき、防災関係機関の連携強化や住民等の防災意識の高揚に繋がるような訓練・啓発等を実施することで、県の防災力向上に資する。

※海岸に面し崖地が多く僅かな平地に人家が集中するなどの地形特性や、過疎化・高齢化の進行などの社会特性など

5 主な訓練項目

防災機関の連携強化を図る訓練

- (1) 被災建物等から被災者の救出、応急救護所の設置や傷病者のトリアージ活動
- (2) 他都県市等からの広域応援やボランティアの応援受入体制の確認



森田知事訓練講評



猿田勝浦市長挨拶



石橋消防協会会長挨拶

住民の防災意識の高揚を図る訓練

- (1) シェイクアウトや津波避難など地震発生時の行動確認
- (2) 自主防災組織を中心とした避難所の運営、要配慮者の支援活動
- (3) 防災に関する教育・体験・展示などを通じた防災啓発（防災フェア）



吉本県議会議長挨拶



住民との初期消火体験を行う森田知事ほか

6 訓練の状況



避難行動／地震発生時の津波避難など



初動活動／建物内への進入捜索など



道路啓開／倒壊信号機の除去など



救出救助／被災車両からの人命救助など



医療救護／傷病者のトリアージ活動など



広域搬送／航空機による傷病者搬送など



応急復旧／ライフラインの復旧など



生活支援／救援物資の輸送など



避難所運営／自主防災組織による運営など



防災フェア／防災体験・教育・啓発など

第26回 全国消防操法大会 千葉県代表(市川市消防団)激励会

平成30年9月12日(水) 午前11時から千葉県本庁舎5階大会議室で、県主催による第26回全国消防操法大会千葉県代表激励会が開催されました。

全国消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図り、もって消防活動の充実発展に寄与することを目的として、各都道府県の代表が出場し開催される「第26回全国消防操法大会」に、本年8月の千葉県消防操法大会において小

型ポンプ操法の部の最優秀賞を受賞した「市川市消防団」が出場するに当たり、活躍を祈念し、激励を行うとともに、高橋副知事からのぼり旗の交付を行いました。



第54回 消防殉職者慰霊祭の開催

平成30年10月10日（水）に「第54回消防殉職者慰霊祭」が、千葉県、公益財団法人日本消防協会の後援により、千葉県消防学校屋内訓練場において、ご遺族、ご来賓、消防関係者など約300人のご参列をいただき、午前10時より、厳粛に執り行われました。

この慰霊祭は郷土防災の使命を果たして、その職に殉じた御霊を慰め、あわせて消防士気の高揚と防災思想の普及を図るため毎年実施しているもので、今年で54回目となります。



鈴木副会長の開式のことば



石橋会長の式辞

合祀されている殉職者は、消防組時代29柱、警防団時代11柱、消防本部・消防団時代の50柱、そして消防協力者6柱、あわせて96柱となっております。

式典は鈴木消防協会副会長の開式のことばで始まり、慰霊碑に拝礼の後、野田市消防音楽隊の演奏による国歌斉唱が行われ、司会者の案内により消防殉職者96柱の御霊に対し参列者全員により黙とうをささげました。

その後、石橋 毅千葉県消防協会長から、「我々消防人一同は、御霊のご遺訓を受け継ぎ、心を新たに団結を強め、地域防災に力を尽くし、安全で安心な社会を実現するため精進努力することを誓います。」と式辞を述べられました。



高橋副知事の追悼のことば



吉本県議会議長の追悼のことば

次に千葉県知事代理として出席された高橋 渡千葉県副知事から「皆様が身をもって示された崇高な志は、今もなお三万四千余の消防人に脈々と受け継がれるとともに、最愛の肉親を失われた御遺族の胸中にも大きな誇りとして生き続けているところ存じます。県としまして、防災関係機関と一致団結し、決意を新たに防災対策の一層の充実に努めていくことを、皆様の前でお誓いいたします」と知事の追悼のことばがささげられました。



遺族等の献花の様子

その後、吉本千葉県議会議長及び県内市長会副会長の相川富里市長及び県内町村会副会長白石鋸南町長から追悼のことばがあり、最後に、倉田最高名誉顧問からの追悼のメッセージが披露されました。

続いて関係者、遺族の方々から、消防殉職者慰霊碑に献花が行われました。

最後に、遺族を代表して山田とし子様から「これからも故人の遺志を継いで、力強く生きていく所存でございます。」とのお礼の言葉及び石橋消防協会長からのお礼の言葉が述べられ、斉藤消防協会副会長の閉式のことばにより、消防殉職者慰霊祭を滞りなく終了しました。



遺族等の献花の様子



お礼のことば (山田遺族代表)



お礼のことば (石橋協会長)



斉藤副会長の閉式のことば

第166期 消防職員初任科生卒業式

千葉県消防学校

平成30年8月22日(水)、千葉県消防学校の消防職員初任科第166期の卒業式が行われました。4月の入学から5ヶ月、27所属130名の若々しい消防職員が厳しい研修を終了し、消火・救急救助知識及び技術を習得し、それぞれの職場に戻り、第一線で活躍することになります。

当日は、開式のことば、国歌斉唱の後、各人が緊張した面持ちで卒業証書の授与を受け、最優秀賞1名、優秀賞12名、努力賞13名の表彰が行われ、淡路千葉県消防学校長の告示、千葉県知事(代理石川防災危機管理部長)・石橋千葉県消防協会長等の祝辞がありました。



淡路学校長告示



知事(石川防災危機管理部長)祝辞



石橋会長祝辞

また、前日の21日(火)には、教育訓練の成果を確認するために10時から消防学校屋外訓練場において「実科査閲」が行われました。学生集合、通常点検、小隊訓練、救急訓練、体力向上体操、呼吸器・結索訓練、総合活動訓練、最後には火災防ぎょ活動の部隊行動を基本として、救出訓練と一斉放水訓練を実施し、初任科で習得した消防活動・救急活動の集大成として、全員により、火災防御・救急救助技術を披露しました。



わが町の消防団 ① 流山市消防団

都心から25km圏内に位置する流山市は、千葉県北西部にあり野田市、柏市、松戸市及び埼玉県三郷市と周囲を接し、東西7.96km、南北10.36km、人口約18万8千人（平成30年8月1日現在）、面積35.32km²の南北に細長い街を形成しています。



本市は、「都心から一番近い森のまち」を目指し、豊かな自然や歴史・文化を生かし、市民が真の豊かさを実感できるまち「みんなで作ろう価値ある流山」を将来都市像として総合計画を策定し、平成17年8月24日、待望の都心直結鉄道であるつくばエクスプレスの開業に伴う沿線整備と市街地形成を骨格としながら、市民が愛着と誇りを持てる街づくりを目指して活動を行っています。

流山市消防団は、昭和26年に「江戸川町消防団」として発足し、平成30年9月現在、小倉邦裕団長以下297名で構成され、1本部23個分団体制で、消防ポンプ自動車6台、小型動力ポンプ付積載車18台、消防団司令車1台の合計25台を配備し、郷土愛の精神を基に流山市民の安心安全を守るため、火災等の災害対応のほか、消防操法訓練、夏季訓練、水防訓練、放水訓練をはじめ、機械器具点検や、夜間パトロール、春・秋の火災予防運動・歳末火災予防特別警戒、市開催の防災訓練や、地元自治会の防災訓練等、積極的に参加しています。



また、応急手当指導員の資格を持つ女性消防団員が中心となり一般市民を対象とした「普通救命講習会」を開催したり、秋から冬にかけて一人暮らしの高齢者宅を訪問し防火診断を実施するなど救急啓発や火災予防啓発も行っていきます。

しかし、地域防災の重要な役割を担う消防団も、全国的に団員の減少が問題とされていますが、当市も例外ではありません。

こうした状況を改善するために、流山市では平成28年5月1日から消防団サポート店制度を導入し、消防団の福利厚生を充実させるために、現在52店舗事業所に協力をいただいています。

また、流山市をモデルとしたアニメ「普通の女子校生が【ろこどる】やってみた。」のキャラクターを起用した消防団員募集や火災予防のポスターを作成し、公共施設や商業施設に掲示しています。

さらに大型商業施設で初期消火訓練や消防車体験乗車のイベントを開催し、消防団と市民の交流を深めながら、地元を守る消防団のPR活動をしています。

流山市は、今後さらに沿線開発が進み、人口の増加や高層建築物の増加が見込まれています。古き良き伝統を守りつつ、時代の変化に柔軟に対応しながら団員一丸となって、市民が安心・安全に暮らせるまちづくりに寄与していきます。



わが町の消防団 ② 東金市消防団

東金市は、東京都心まで約50キロメートル、千葉県のほぼ中央部に位置しています。人口は約6万人で温暖な気候に恵まれ、平野部は良質な田園地帯が太平洋に向かって広がり、丘陵地は山武杉の森林に覆われています。



古くは江戸時代、徳川家康の鷹狩りのために「御成街道」が造られたことにより、この地に宿場町と近隣の農産物が集まる問屋街とが形成されました。以降、東金は物流の集散地としてにぎわうようになり、九十九里地域の中核都市として発展しました。現在では、国道126号線と千葉東金有料道路をつなぐ交通の要衝となっており、平成25年4月27日には首都圏中央連絡自動車道が開通し、本市の重要性はさらに高

まっています。

東金市消防団は、平成30年4月1日現在、植松一夫団長以下479名、本部・7個分団・29個班体制で、消防ポンプ自動車13台、小型動力ポンプ付積載車16台、水槽車1台、赤バイ3台を保有し、火災発生時の消火活動や風水害・地震等の大規模災害時の活動など東金市民約6万人の安全と安心のため、また、市民の生命・身体・財産を守るために日夜活動しています。

このため平常時には、消防防災知識の習得や水利・資機材の点検、消防ポンプ操法や中継技術の習得、救命講習、更には応急手当普及員講習の受講など各種訓練及び講習を積極的に実施しています。



また、市が主催する防災訓練への参加はもとより、学校や幼稚園、保育園、または地元主催の防災訓練への協力、火災予防の広報活動など啓発活動にも力をいれ地域に密着している消防団として幅広く活動しています。

特に団員の技術向上のための操法訓練については頻繁に実施し、訓練の成果を競う操法大会では火災現場を想定し、実際に水を出す演技方法で2年に1度開催しています。

訓練では、先輩団員が代々習得してきた技術を引き継ぎ、全国消防操法大会にはポンプ車の部で4度出場（うち準優勝2回）するなど優秀な成績を残しています。平成19年度、平成23年度には女性団員も全国女性消防操法大会に出場するなど活発に活動しています。

毎年の出初式においては、分列行進や小・中隊訓練、操法演技などが披露され、式典終了後に八鶴湖畔において行われる一斉放水では、29台の消防車両から湖に向けて一斉放水が始まると集まった見学者からは大きな歓声があがっています。

本市においても新入団員の確保は喫緊の課題になっています。このことから平成22年度に機能別消防団員制度を取り入れ、平日の日中の火災において、出動が困難な団員に代わり力を発揮してくれています。

また、本市に平成4年に開学した城西国際大学と連携し、平成30年9月より機能別学生消防団員制度を導入いたしました。学生消防団員のみなさんには、平時には救命講習の普及や消防団のPR活動、防災訓練などに参加いただき、災害時には避難所運営の補助員として物資の管理や配布などに当たっていただきます。

これからも東金市消防団は、古き良き伝統を継承しつつ、新しいものにも目を向けながら「市民が安全で安心に暮らすことができる東金」を目指し、地域の防災リーダーとして市民の期待に応えていけるように邁進してまいります。

東 西 南 北

東 西 南 北 解体予定の建物を活用した消防訓練を実施 柏市消防局

柏市消防局では、独立行政法人都市再生機構の御協力により、解体予定の団地を活用した消防訓練を実施（7月6日から20日までの間で計4回）しました。

大地震により倒壊した建物に要救助者が取り残されていることを想定した建物破壊訓練をはじめ、建物火災を想定し、煙を充満させた居室に屋内進入、検索活動を行い要救助者（訓練用人形）を救出する訓練など、各消防署で企画した訓練に、経験年数の少ない若年層職員も多く参加し、消防救助技術の向上と隊員相互の連携強化につながる有意義な訓練となりました。



東 西 南 北 消防協力者表彰を実施 千葉市消防局

7月20日（金）中央区南町2丁目「千葉南公共職業安定所」において、心肺停止に陥っていた男性に対し、職員が協力して救命処置を行い、男性の救命に寄与されました！この消防協力者に対して中央消防署長から感謝状と記念品を贈呈しました。

今後も協力して頂いた方に対し、感謝を込め、表彰を行っていきます。



東 西 南 北 「親子で学ぼう 胸骨圧迫！電気ショック！」を開催 船橋市消防局

船橋市消防局では、平成30年7月27日（金）に夏休み特別企画として小学校4年生から6年生までの生徒とその保護者を対象に、心肺蘇生法の第一歩として、胸骨圧迫とAEDの使用方法を学ぶ「親子で学ぼう 胸骨圧迫！電気ショック！」を開催いたしました。

参加した小学生は「胸を連続で強く圧迫することや、AEDの使い方を覚えることは大変だった。」との感想を述べながらも、講習終了時には親子で協力して胸骨圧迫とAEDを見事に実践しておりました。

救命のために勇気を持って行動できるバイスタンダーを増やすため、今後とも普及啓発活動に取り組んでまいりたいと考えております。



救急活動の功勞に対し、JR松戸駅に感謝状を贈呈

東 西
南 北

松戸市消防局

松戸市消防局、島本幸夫消防局長は平成30年8月8日(水)、松戸駅構内で心肺停止状態となった乗客に対して1次救命処置を実施し、その後社会復帰へと導いた功績を讃えJR松戸駅に感謝状を贈呈した。

この救急事案は、平成30年5月18日(金)9時頃、松戸駅構内で発生。51歳の乗客が心肺停止となった。駅員により119番通報、胸骨圧迫、駅構内設置のAEDによる通電が行われた。その後、救急隊、消防隊、松戸市立総合医療センタードクターカーが到着するまでの間、適切な1次救命処置が行われ続け、命をつなぐリレーのバトンが2次救命処置へと繋がり、乗客は完全なる社会復帰が叶った。



救急フェアを開催

東 西
南 北

船橋市消防局

船橋市消防局では、平成30年9月8日(土)救急医療週間に伴う応急手当普及啓発活動として船橋市民文化ホールを会場に救急フェアを第30回市民とともに考える救急医療シンポジウムと同時開催いたしました。

心肺蘇生法及びAED体験や救急車の展示、その他ホール内で音楽隊の演奏会や救急活動の実演を行い、船橋市の公認キャラクター目利き番頭「船えもん」も登場し、会場を盛り上げてくれました。

多くの市民の皆様へ、救急車の適正利用の普及啓発、応急手当の重要性について理解と認識を深めていただきました。



学生消防団員が誕生 ～地域防災を支える若き担い手～

東 西
南 北

東金市消防団

東金市にある城西国際大学の学生たちが、地域の防災を担う消防団員としての一步を踏み出しました。

東金市にキャンパスがある城西国際大学で、9月19日、辞令交付式が行われ、男女26名の学生消防団員が誕生しました。

学生団員の皆さんには機能別消防団員として、平時には救命講習や予防啓発活動、団のPR活動にあたってもらい、災害時には避難所運営の後方支援に従事してもらいます。

辞令交付があった当日、学生消防団員の皆さんは、最初の団員活動となるキャンパス内の避難訓練に従事し、通訳を介し中国や韓国からの留学生たちを避難場所に誘導しました。



日々の動き

防災危機管理部／消防協会 共同編集

平成30年10月

10日 第54回消防殉職者慰霊祭(消防学校)

19日 第26回全国消防操法大会(富山市)

23日～24日 関東地区女性防火クラブ研修会



平成30年度 全国統一防火標語
「忘れてない? サイフにスマホに 火の確認」

平成30年 秋季全国火災予防運動
平成30年11月9日(金)～11月15日(木)

- 【重点目標】
- ①住宅防火対策の推進
 - ②乾燥時及び強風時火災発生防止対策の推進
 - ③防火火災防止対策の推進
 - ④特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
 - ⑤製品火災の発生防止に向けた取組の推進
 - ⑥多数の者が集合する催しに対する火災予防指導等の徹底

<表紙の説明>

伊能忠敬翁銅像（香取市）香取支部

伊能忠敬の没後200年を記念し、平成30年5月にJR佐原駅南口ロータリーに建立されました。伊能忠敬翁の偉大な業績を後世に伝え、永く歴史にとどめるため、伊能忠敬翁銅像建立委員会が設立されました。平成28年10月から同委員会が制作費の寄付を募るとともに、香取市もふるさと納税により全国から寄付を募り、約2900万円の寄付が集まりました。

銅像は旧佐原市出身の彫刻家木内禮智氏きうちれいちがデザインし、台座を含め高さ4.4mで、忠敬が緯度1度の距離を測ることを目標とし、毎晩のように北極星を観測していたことから、北を向いています。

